



北海道キャンプ協会 かわら版

2016. 12. 1

北海道キャンプ協会 発行

「学校の視点からの体験活動」

宿泊学習を前にして、担任から「飯ごうだと失敗しそうなので、今年は食堂食にしようと思う」と相談があった。例年の夕食は、青少年教育施設での飯ごう炊さんとカレーという定番中の定番。行事の目的にある「友達と協力する」に一番直結する活動です。

私が「この目標を達成する活動が少なくなるが、どこで、それを補いますか」と確認すると特段考えていないとのこと。そこで「炊き方は施設で説明してくれますし、必要であれば、私が手順を作ります。事前に先生が作ってみませんか。」とアドバイスをしました。

結果、今年も、飯ごうで炊いたおいしい、中にはちょっと堅めの、またメッコメシでカレーの夕食が行われました。

体験活動、特に、自然体験は教員にとって苦手とする人が多い分野です。それは、こうした体験をしている教員が少ないことがあげられます。子供の生活経験差が大きいいため、学級全ての子供に成功体験を求めると、苦手な子に全体のレベルを合わせる傾向があります。失敗できないという思いは、子供の目線にたつがゆえであること、そして教師の経験が少ないため、失敗が行事全体に与える影響の度合いがわからないこともより不安になる理由です。



私は、青少年教育施設にいた時に「自然体験でカレーが定番で良いのか」と疑問を持っていました。でも、改めてこうした状況を考えると、「カレーでもいいんです」と思うに至っています。

指導する側は、得意であるが故に、より高度な内容や技術を意図せずに相手に求めてしまうことがあります。団体の特性を見極めて適切なアドバイスをすることが何より重要だと考えます。

ですから何をどう作るかの情報だけではなく、この活動が子供の成長にどんな意味があるか。失敗やけがを防ぐために何が必要か。失敗したときにはどんな代替え措置があるかなど、事前調整の時に教師の不安を先読みしてそれを取り去る丁寧な指導が大切です。

また、学校には「学力向上」という逆風があります。

本来「学力向上」に体験活動は重要でなければならないのですが、必ずしもそうなってはいません。

ここ数年は特に、全国学力学習状況調査の北海道の平均正答率を全国平均以上にすることが求められ、教職員の熱心な取り組みによりその成果が出始めています。しかし、このことは、ともすると体験活動より机上での繰り返し学習を重視する傾向があることも否定できません。

今、子供たちに求められる学力には、1つの解を求めることにとどまらず、解決の道筋を考え、説明できることに重きが置かれています。

体験活動が、この学力観にどのようなメリットがあるのか、自然体験の指導者がしっかりとした答えを持って、教員に説明できることも大切なアプローチの要素になると考えます。

学力と体験活動との関係は、天秤の相対する皿に乗せられ、一方が下がると他方が上がるというのではなく、様々な体験という氷の上に学力が支えられる、氷山のようにとらえられなくてはならないと考えています。

小野俊英（公立小学校校長）

指導者養成担当より

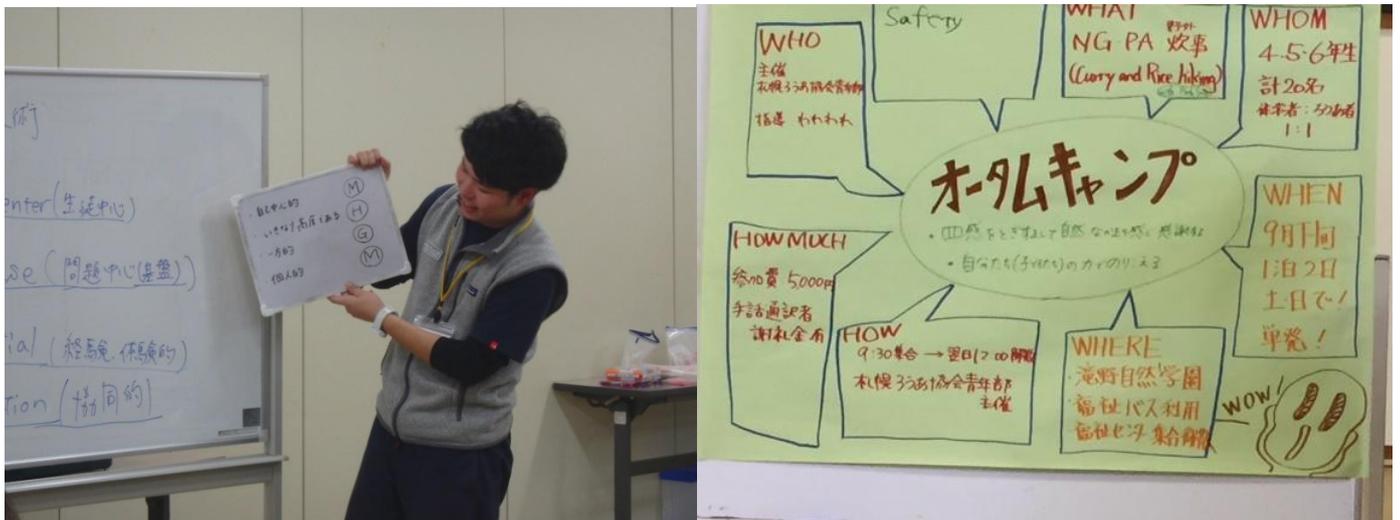
「キャンプディレクター2級養成講習会が行われました！」

11月4日（金）から6日（日）の期間において北海道キャンプ協会の主催による「キャンプディレクター2級養成講習会」が行われました。会場は国営滝野すずらん丘陵公園内にある札幌市青少年山の家。講習会プログラムはすべて順調にすすんではいましたが、なんと最終日に大雪による影響で国営公園が臨時休園してしまうというハプニング付き。外の雪景色を見て「前日は野外炊事していたのに、信じられない…」とスタッフも驚くほどの状況でした。

2年に一度開催している当講習会ですが、今年度は合計8名のインストラクターさんがディレクター2級を目指して参加。遠くは釧路市や別海町からもお越しいただき、ディレクターとしての知識や理論、技術の向上だけではなく、指導者間の情報交換や交流も積極的に行われ新たなつながりも生まれました。

キャンプディレクター2級の役割は、「自分自身でキャンプを企画し多くの人にキャンプの楽しさを体験する機会を創り出す」こと。この実践的な指導者を養成するために、北海道キャンプ協会所属キャンプディレクター1級の講師陣総勢7名+運営スタッフ2名にご協力いただきました。大学教授から組織の長、キャンプ指導の実践者など幅広い講師陣の講話はキャンプへの意識をより高める機会にもなったことでしょう。

キャンプディレクター2級の合否発表はこれからですが、1名でも多くのキャンプディレクター2級が誕生することを心より祈っております。北海道キャンプ協会では、このディレクター2級養成講習会を今後も隔年実施する予定でおります。次回開催は平成30年度。多くの方のチャレンジをお待ちしております。



『北海道キャンプフェスタ 2016』 事業報告

実施日：2016年10月9日(日)

会 場：定山溪自然の村

北海道キャンプフェスタ 2016 は、昨年まで「遊びのバイキング」として活動していましたが、もっと広く北海道のキャンプ指導者が関わるイベントにしたいという願いを込めて、今年から名前を変えて実施しました。また、昨年度のあそびのバイキングよりも多くの人に参加してほしいため、今年は、定山溪自然の村を会場とし、村の利用者を主たるターゲットとして実施しました。その結果、延べ 222 名の子どもや大人の方々が参加し、大いに盛り上がりました。

当日は、札幌近隣で自然体験活動を提供している 6 団体 30 名のキャンプ協会会員が集まり、キャンプのときに使える遊びを始め、野生動物について学べる教材紹介、もの作り、焚き火おやつなどのブースを展開して、参加者にキャンプの魅力を色々な観点で伝えました。また企業枠として参加した合同会社エアロスミスの空中テント（テントサイル）の展示紹介にもたくさんの方の注目が集まり、新しいテントスタイルに感動している様子でした。

【ブース出展団体紹介】

- NPO 法人自然教育促進会（どんぐりコマ、松ぼっくりケン玉、スラックライン）
- NPO 法人こども共育サポートセンター（自然物で記録にチャレンジ）
- NPO 法人ネイチャープログラムデザイン（かざぐるま作り）
- 札幌市青少年山の家（ヒグマトランクキットで野生生物との共存について紹介）
- 札幌市定山溪自然の村（テント・タープの紹介）
- 北翔大学野外教育研究会（焚き火おやつ作り） 展示物も楽しんでいる様子でした。

参加者の声

- 自然物でこんなに楽しく遊べるなんて知らなかった。是非来年も実施してほしい！
- 松ぼっくりの中に種があるのにビックリ！へ～、こうなっているんだ。知っているようで知らなかったことがたくさん学べて良かったです。

携わったスタッフの声

- キャンプフェスタを他団体と協力して実施することにより、各団体との繋がりも深まり、さらなるキャンプ活動の啓発、普及に向けてのモチベーションを高めることができました。



アジア・オセアニアキャンプ大会参加報告

10月28日～11月1日に開催された、アジア・オセアニアキャンプ大会に参加させていただきました。この大会は日本キャンプ協会設立50周年記念事業として東京で開催され、50年の節目に相応しく、世界20カ国から400人近い参加で盛大に行われました。

2日目の『集いの時間』では北海道・東北ブロックの各8キャンプ協会合同で、山形の竹を使って湯呑を作るワークショップを運営しました。世界各国からも多くの参加者が集まり、日本文化を伝える良い機会となりました。また、ポスター発表では当協会の若手指導者（えぞっぴ）による運営参画の取り組みを紹介し、全国の協会から称賛の声を多くいただきました。

その他、各国各地域のキャンプの優れた実践、最前線の取り組みについての発表や報告があり、「キャンプ」をひとつのキーワードに学び合う機会となりましたことをご報告させていただきます。



報告者：山田 啓貴（公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会）

山形県キャンプ協会30周年事業参加報告

10月1日（土）～2日（日）で、こころの宿一龍にて山形県キャンプ協会創立30周年事業が行われ、北海道キャンプ協会からは粥川会長と岩崎の2名が参加しました。

山形県キャンプ協会の鈴木会長からの挨拶、日本キャンプ協会理事の野口氏からの祝辞の後、協会を長年支えてこられた方々への感謝状贈呈式が行われました。何と云っても、昭和30年頃から『教育キャンプ』を主催していた団体が母体となって東北地区で最初に設立されたのが山形県キャンプ協会とのこと。脈々と受け継がれてきた情熱と歴史を感じることができた式典でした。

式典の後は、NPO 法人山形ロングトレイル理事の齊藤正史氏による『ロングトレイルとキャンプ』と題した記念講演がありました。齊藤氏自身がアメリカ、ニュージーランド等の有名なロングトレイルを踏破した経験談を交えながらのお話でした。また一方的な話ばかりではなく、後半は実際に使用しているバックパックや、グッズなどを見せて頂き、参加者からの質問を受けながら講演は進みました。私たちが通常の生活の中で当たり前のようにしている『食事・睡眠・入浴』が長期間のキャンプではどんな工夫がされているのか、またキャンプならではの野生生物（特に危険な）との付き合い方についてのお話をきくことができました。何と云っても重い荷物を背負っての移動です。物をいかに少量化するか、燃料をいかに節約するかなど『究極のエコ』のお話に感激し、日常の生活の中でも取り入れられることがたくさんあることに気づかされた講演でした。

報告者：岩崎 栄知子（北海道キャンプ協会事務局）

北海道キャンプ協会事務局

〒047-0155 小樽市望洋台 2-14-1 望洋ビル (特)自然教育促進会内 担当：安原、岩崎
お問い合わせ TEL 0134(52)3240 FAX 0134(51)5667
E-mail : office@hokkaidocamp.com URL : <http://www.hokkaidocamp.com/index>